

2007 年度
GNC 活動報告

平成 20 年 3 月



人づくり事業

エコ教室



第 6 回エコ教室

日時：2007 年 9 月 10 日(月)10:30～16:30

会場：ツォゴさんの GNC モデル農場

参加メンバー：GNC スタッフ(日本・モンゴル)、在日モンゴル留学生 2 名、18 学校・23 学校・108 学校日本語コース生徒
各校 15 名、各校の教員

今回でエコ教室も 6 回目。これまでも一緒に勉強してきた 18 学校、23 学校、108 学校より、12 歳から 15 歳の子供たちが参加しました。各校から 15 名ずつ、スタッフもあわせれば 60 名近くの人数。はじめに全員で自己紹介。そして、GNC の活動紹介、ゴミ問題についてのレクチャー、アニメ「木を植えた男」の上映まででランチタイムに。

楽しいランチタイムの後、今回 GNC のエコツアーに全て同行した在日モンゴル留学生会の代表のトガさんとベンチェさんが、日本語を勉強し日本に留学している先輩として、日本での留学生活、そして留学生会の活動について話をしました。憧れの先輩の生の声に接することが出来て、子供たちも日本語を勉強する意欲が一層沸いたことと思います。将来、ここで一緒に勉強した子供たちが日本に留学することになり日本で再会できればこれ以上の喜びはありません。今回はじめての試みでしたが、日本にいる留学生と日本語を勉強している子供たちが直接交流することの意義の大きさを痛感しました。来年からは在日モンゴル留学生会とのコラボレーション企画として、恒例化したいと強く思いました。

この後、いつものように外で記念植樹。すっかり都会っ子となったウランバートルの子供たちにとって、とても新鮮な体験だったようで元気な笑い声が絶えませんでした。最後は、「今日の日はさようなら」をみんなで歌いました。

カスタディーツアー

2004 年以来、3 年ぶりに在日モンゴル留学生 5 人と共に旧車力村(つがる市車力)を訪問しました。

最近では、地球温暖化など地球規模の環境問題の解決の必要性がテレビで 連日のように流れるようになりました。そのような折、GNC が毎年ハワリンバイル(モンゴルの春まつりという意味)開催で協力している在日モンゴル留学生会の今年度の役員メンバーたちは自分たちの手で 母国において 環境問題についてなにか目に見える形でのアクションを起こしたいと強く思い始めるようになりました。

そこで、GNC として、車カスターディーツアーを企画し、是非、彼らに旧車力村の厳しい環境、(寒冷地、強風による砂の移動、やせた土壌など)を乗り越えて、遠く江戸時代より試行錯誤を重ね、農業を充実させるためにたゆまぬ努力を続けている姿勢、特に、この村の生命線といえる何重にも植樹された見事なクロマツの防風林帯を実際に目にする機会を提供したいと考えました。車力には過酷な自然と闘わなければならない彼らの母国、モンゴル国にとって、見習うべき多くの点があり、このツアー中の体験を通して、彼らが母国でアクションを起こすことの意義をより深く理解し、その想いを強めてくれることを期待します。



参加留学生感想



トガー(ムフトゥグー)さん 2007 年度在日モンゴル留学生会 代表(千葉大学法経学部 3 年)

日本に留学している私たちをいろいろな点で支えている GNC の皆さんが、今回の旅の企画を作ってモンゴルの留学生たちを招待した上で、私が「青森県車力村スターディーツアー」に参加しました。最初からこの旅の目的は何かを知らず、ただ参加することになりました。

GNC の矢野さんは日ごろから留学生の私たちがお世話になっている方で、このたびに誘ったのですぐ「行きます」と答えた。最初は、車力村にて、植林を見に行くことだけ分かっていた。それで、旅に立ちました。

そして、私たちの国のため今までいろいろな活動し、モンゴルの大自然、其の森を取り戻すために皆さんがどれだけがんばっていることを、今回の旅で知りました。本国モンゴルに木を植えながら、いろいろな活動しているにも関わらず、日本に留学している私たちにもモンゴルの大自然の破壊を防止するため何をすればよいかなど様々なアイデアを教えてくださいました。さらに、それが本当に母国を愛することの意味だと分かりました。

そして車力村の人工森林を見て私は人間とは素晴らしいと感じました。本当に努力すれば、思った通りの良い結果が出るのが車力村の皆さんの 200 年間ぐらいの自然(森)をつくる自然との闘いから分かりました。

今回皆さんに教えてもらった知識を物し、自然を大事にし、随分破壊されている自然を取戻すためや森林伐採を防ぐため、自ら木を植えて、熱心で頑張っ、見守って生きたいと思います。応援よろしく御願いたします。

最後に「車力村スターディーツアー」に参加できる機会を与えてくれた GNC の皆さんと車力村の皆さんに心から感謝の気持ちを申し上げたいと思います。

皆さん誠に有難う御座いました。私たちの友好関係は今回で終わるわけにいけないと思います。皆さんと長い間、付き合い、仲良く活動しながらモンゴル人と日本人の交流を図って、お互いに頑張っ、生きたいと思います。

今後とも宜しく御願いたします。



ダシカ(ダシツェレン)さん (東京大学法学部3年生)

この間大変お世話になりました。凄く楽しい見学をさせていただきました。

本当にありがとうございました。

今回の車力スタディツアーは私にとっていろいろと大変良い勉強になりました。

厳しい自然環境を乗り越えて、自然を愛する車力村の姿勢でいろいろ環境問題抱いているモンゴル人である留学生の私たちにとっていろいろな見学すべき点がたくさんあったとおもいます。

車力村の生命線と言われる森を見て、人間と森つまり人間と自然の共存をもう一度考えるべきじゃないかということを感じた場でした。確かに発展途中国であるモンゴルでは経済成長を優先とする傾向がよく見られるが、本当に自然を大切に、それを次世代に伝えたいのは現世代—私たちの義務で、これから森つまり環境の大事さを積極的に訴えていきたいです。

これからのモンゴルでの活動にも積極的に今回の見学のことを参考及び取り込みして生きたいとおもいます。

成田元村長が植えた小さな種がここまで根強い木になったように私はモンゴル—日本友好関係の架け橋になって頑張っていきたいと思います。

今後も大変お世話になると思いますので、今後とも宜しくお願いします。



デルメ(バトデルム)さん 2006年度在日モンゴル留学生会 代表 (一橋大学商学部4年)

青森県つがる市(旧・車力村)へモンゴルで植林活動を展開している GNC の方々といってきました。地元の優しい人たちと自然という教室で触れ合い、学び、考える機会に恵まれました。

GNC について以前から知っていましたが、なぜ旧・車力村へ遠出するかという疑問が当初からわきました。しかし、そもそもモンゴルで活動を開始する出発点に当時村長であった成田さんとの出会いがあったことが分かってきました。行く前に「モンゴルで米ができた日」という本などを読み旧車力村のみなさんとモンゴルの付き合いがどこよりも早く進んでいたことが分かりました。

自然と共存するため努力し、冷たい風から守ってくれる植林までに成功した感動の話がきけました。そこで今の自分に何ができるのだと改めて考えました。日本にきて多くを知ることができましたが、具体的に国にどうにかせるかが自分の課題でもあります。

大自然の国モンゴルが今後もその姿を将来に残すため色々な努力が必要とされています。そこで自分の役割しっかりみつめていきたいと思いました。

皆さんにお世話になりました。改めて感謝したい。

NGO合同研究&活動報告会

第8回NGO合同研究&活動報告会

開催日時:2008年2月2日(土)13:30~16:30

会場:法政大学地域研究センター 台東サテライトオフィス

- 【プログラム】
1. 開会挨拶
 2. 基調講演1「環境とお金」

講演者:中西武志 氏

カーボンフリーコンサルティング(株)

<http://www.carbonfree.co.jp/>



3. 基調講演2 「中国物権法施行と草原環境への影響」

講演者: 奥田進一(おくだ しんいち)氏

平成5年 早稲田大学法学部卒業

平成7年 早稲田大学院法学研究科修士課程卒業

現職: 拓殖大学政経学部 准教授

専攻: 民法、環境法、中国法



4. 各団体報告&質疑応答

GNC (発表者: 宮木 いっぺい氏)

活動地: モンゴル国

(テーマ) ネットワーク形成とマネジメントをめぐる諸問題! (GNC モンゴル発足後)

ここ数年 GNC は、持続可能なモンゴル国を担ってゆく人材の育成やそれにつながるような活動を総合的に行っています。「一緒に学ぶ」ことを通じて、「一緒に課題を発見し、分析し、解決策を導き出す。」これが今の GNC の活動です。具体的には、人づくり、森づくり、公園づくり、苗畑づくり、拠点づくりを行っています。

この1年、「一緒に学び行動する」パートナーとして、在日モンゴル留学生会との結びつきが今まで以上に強まりました。また、企業との協力関係も進展しました。と同時に、ネットワーク形成とマネジメントに関する新しい「問題」も出てまいりました。今回はその「問題」についての GNC の展望を示した上で、意見交換し皆様のお知恵を拝借できればと考えております。



砂漠緑化団体 地球緑化クラブ (発表者: 原 鋭次郎氏)

活動地: 中国内モンゴル自治区クブチ沙漠

(テーマ) 地球環境の未来と現場の関係

地球温暖化がメディアで毎日のように取り上げられています。気候の変動など、私たちの生活にも直接的に影響を及ぼし始めています。

省エネをして CO2の排出を減らせば温暖化は防げるのでしょうか? いや、温暖化を防ぐにはやはり植林を進め、CO2の吸収を促進させることがとても重要なのではないのでしょうか。しかし、植林するだけではもったいない! 何か現地にも還元したい! そこで、温暖化対策への取り組みを通じて、現地を豊かな土地へと変えていくための提案をさせていただきたいと思います。



内モンゴル沙漠化防止植林の会 (発表者: B. セルゲレン氏)

活動地: 中国内モンゴル自治区ホルチン沙地

(テーマ) 中国植林の現在



5. 意見交換

6. 閉会挨拶



7. 懇親会(御徒町駅近くの居酒屋にて！)



昨年と同じ、御徒町駅近くの安くてなかなかおいしい居酒屋に繰り出しました。僕が普段学生たちと使っているお店です。内モンゴル沙漠化防止植林の会、地球緑化クラブ、GNC の 3 団体のメンバーはもちろん、エコツアーで一緒した板橋モンゴル孤児支援の会の皆様、それに今日はじめてお目にかかった、カーボンフリーコンサルティング(株)の中西さんはじめ皆様にもご参加いただくことができ、すっかり打ち解けて楽しい時間を過ごすことが出来ました。

【今回の報告会の所感】GNC 代表 宮木いっぺい

今回も昨年に引き続き、僕が日頃勤めている法政大学地域研究センターの台東サテライトオフィスで、第8回NGO合同研究&活動報告会を開催しました。

共催している「内モンゴル沙漠化防止植林の会」と「地球緑化クラブ」の方々と会うことは僕にとって1年の大きな楽しみの一つです。基本の考え方、志を共有している居心地の良さとお互いどれだけ成長しているかを確認する良い緊張感を感じます。また今回は、昨年の秋に GNC のエコツアーで一緒した「板橋モンゴル孤児支援の会」の皆様にもご参加いただけました。基調講演は、「環境とお金」と題してカーボンフリーコンサルティング(株)の代表取締役の中西武志氏、「中国物権法施行と草原環境への影響」と題して拓殖大学政経学部 准教授の奥田進一氏にお願いしました。

今回の共通テーマは、「経済と環境」といえそうです。この問題は、各団体ともに避けて通れない問題になっていて、人々の経済合理性と環境保全をどのように両立させるか、そのために具体的に何が出来るのかという領域に各団体が不思議にも同時期に踏み込んでいるといえます。それが時代の要請だともいえます。実際、1年前の報告会の後、GNC は企業とのコラボレーションを本格化させました。カーボンフリーコンサルティング(株)は地球緑化クラブが昨年よりコラボレーションをスタートさせた企業です。1年前の所感で「各団体はこれらの問題を解決するために以下のような共通のキーワード、すなわち「現地の人々が自ら動き出した」「ビジネスとして成立させる」「企業とのコラボレーション」「教育の重要性」をめぐる活動を、不思議なことに同時期に同じようにスタートさせているということも今回の活動報告からわかりました。1年後各団体がどれだけの成果をあげて再び集まることができるのか、今から楽しみです。」と書きました。その一つの具体的な答えを今回持ち寄る結果となりました。そして、1年後に向けて各団体がさらなる課題を持ち帰ることとなりました。ありがたいことに GNC は、企業からの協力の申し出を多くいただけるようになってきました。それだけに責任ある姿勢を内外に示してゆく必要性がこれまでより格段に大きくなりました。GNC は、環境教育と森づくりを活動の柱としていますが、今後カーボンオフセットを企業とのコラボレーションの中でどう位置づけてゆくのか、しっかりと考えてゆかなければならないと思います。

ハワリンバヤル 2007



2007年4月29、30日、東京都練馬区の都立光ヶ丘公園にて、ハワリンバイタル2007が開催されました。GNCは、2001年から協力団体としてハワリンバイタルに関わっています。今年も昨年に引き続き、天気にも恵まれ、大盛況のもとに幕を閉じました。例年どおり、GNCの活動内容を来場される皆さまにお知らせするために、多数の展示を行いました。

昨年に引き続き、GNCは、募金活動を行いました。このお金は、火災により多くの森林を失った、モンゴル国セレンゲ県の森林再生のために用います。今回は、昨年のような段ボール箱ではなく透明なプラスチックのきれいな募金箱を用意し、イラスト入りの説明パネルも準備しました。とてもうれしいことに、小さな子どもや、多数のモンゴル人も募金してくれました。その結果、2日間で35401円も集まりました。昨年からの多くのみなさまの「GNC 共存の森づくり」への募金により、今年5月、ついに10ha アカマツ3万本の植林が実現しました。

また、今回も、日本人だけでなく、多くのモンゴル人の方々もボランティアスタッフとして、大活躍してくれました。そのおかげもあってか、GNCの展示ブースには、実にたくさんの方々も訪問してくれました。中でも、日本に留学して間もないテルーミンさんと今回観光で来日されたおかあさんには驚かされました。何とテルーミンさんのおかあさんは、GNCがモンゴル国立大学エコロジー教育センターと共同で作ったエコ植物園の中を毎日散歩するのが大好きだとのこと。その偶然に一同大いに興奮し盛り上がりました。

森づくり事業

現在、資金源別に大きく3種類の森づくり事業をすすめています。3ヶ所とも、セレンゲ県に位置しています。

9月のエコツアーでは、9月11日～13日の日程で、セレンゲ県のトジンナルス、および今回から新たな植林地となったホタカ・ウンドウルを大変な強行軍で視察しました。GNCのモンゴルスタッフ、日本スタッフに加えて、在日モンゴル留学生会の2人、モンゴル国立大学の学生3人、KSGインターナショナルから1人が参加しました。2004年から植えてきた全ての植林地を森林動物センター長のジャムスランさんとともに巡り、全ての場所で苗木がどれだけ成長したか、活着率はどうかの定点観測を行いました。これらをきちんと分析し、今後につなげてゆきたいと考えています。

日モ友好の森

2004年5月よりスタートしました。

通算80ha 24万本植林

植林地：トジンナルス



GNC共存の森

2007年5月 皆様の募金による森づくりがスタートしました。

2007年度 10ha 3万本植林

植林地：セレンゲ県ホタカ・ウンドウル

ホタカ・ウンドゥルは、GNC の新たな植林地です。セレンゲ県アルタンボラク村(ロシアとの国境の村)から東南東約50 km、フドゥル村までの道沿いに位置しています。これまでのトジンナルスに隣接していますが、さらに奥地で、ジープに乗って相当な悪路を進んでゆかなければなりません。ただその分家畜の被害にあいにくく活着率は良好です。最後の大きい森林火災は1996年で、その後もロシアから国境を越えて火災にたびたび見舞われています。斜面は北東向きのため、土壤水分状態は比較的良好。土質は砂地。草本植物が繁茂し(草丈約30cm)、天然更新による50cmほどアカマツ幼木もちらほら見られます。火災による倒木と伐採による切り株も見られます。



企業との連携の森

トライウォール「エコフィン生命の森」

2007年度 10ha 3万本植林

植林地: セレンゲ県ホタカ・ウンドゥル



企業との連携による森づくりがいよいよはじまりました。記念すべき第1号であるトライウォールの皆様は、既に春に植林地の視察を行っています。その際は、GNC モンゴルのスタッフが諸々の準備、案内を行いました。今回は来年度からのスタートに向けて、KSG インターナショナルの方にお一人ご同行いただきました。少しでも緑を増やすために、企業の皆様にご協力いただけることは大変ありがたいことです。ただ、実際にどういう場所でそのように植林をしているのか、必ず直接ご覧いただきたいと GNC としては考えています。

苗畑づくり事業

GNCは、森づくりに必要な苗木生産を行うために、トゥブ県バヤンチャンドマン村にて、苗畑造成プロジェクトをすすめています。

現在モンゴル国において植林、緑化の重要性が広く認識されはじめていますが、一方でそれを利用して自らの利益追求のために供給量と価格をコントロールする苗木会社が多くなっています。そのため植樹のための苗木を安価に安定的に入手することが以前にくらべ困難になりました。そこで森林再生、緑化を推進してゆくために GNC 自身で安価で安定的な苗木供給システムを構築する必要があると考えました。

そこで、専門スタッフの調査にもとづき、苗畑開墾場所として、ウランバートルからさほど遠くなく、かつ苗畑に適した土、

環境を有し、何より自治体および地元住民ボランティアの全面的な協力が得られる場所としてトゥブ県バヤンチャンドマン村を選びました。当地には小中高の学校、および農業大学もあり、教育啓蒙、学生とのコラボレーションの可能性が高いことも好材料です。

村内苗畑地では、苗木育成のためのビニールハウスにおいてカラマツ、アカマツ、ニレ等の実生苗、くろうめのどき、野生黒葡萄等の挿木苗の生産、及び、村郊外(地名:ブルハンティンアム)の苗畑(2ha)において、主に針葉樹(アカマツ、カラマツの実生苗)の生産を行ないました。このため常駐の技術者と臨時の作業員を雇用しました。2人とも信頼できるパートナーで、とりわけ若いエンフトゥーシン君(18歳)はまじめな仕事ぶりに加えて、日本語の勉強にも熱心でした。どちらの場所においても、こちらの予想をこえて苗木は大変順調に育っていました。ただ、水の供給には問題があり(遠方から運んでこなければならぬ)、モンゴルスタッフは井戸堀の必要性を強く主張していました。

バヤンチャンドマン村ビニールハウス



ブルハンティンアム苗畑地



公園づくり事業

公園づくりも、GNCの活動の大きな柱の一つです。ウランバートルの中心に公園・植物園を作ることで、緑の大切さを一般の市民に認知してもらう、教育啓蒙的(宣伝)効果を望めます。また、モンゴル国立大学エコロジー教育センター、モンゴル国立音楽舞踊学校という未来の環境関連分野、芸術分野を背負ってゆくことになる若者を育てる場所で、その指導者、学生と一緒にアクションを起こすことの重要性は言うまでもありません。

ただ、両プロジェクトは資金面でかなり厳しい状況にあり、今後、いかに安定的継続的に資金調達し事業をすすめてゆくか、モンゴル、日本両方のスタッフが目下頭を悩ませているところです。スポンサーを募るためにも、2008年度からは、エコ教室を、GNCのモデル農場ではなく、モンゴル国立大学エコロジー教育センター内のエコ植物園で、より一層規模を大きくして行い、メディアにも取り上げてもらうなど、認知度をより一層アップさせる工夫が必要かもしれません。なお大変

ありがたいことに、今回のツアーの最後のパーティーで、モンゴル国立大学エコロジー教育センターから、GNCのこれまでの植物園づくりの功績に対して表彰状と記念品が贈られました(写真)。また、実際に近隣住民の憩いの場として定着していることが何よりの喜びでした。この評価を裏切らないために今後より一層気を引き締めて事業をすすめてゆかなければならないと思いました。

モンゴル国立大学エコロジー教育センター内 エコ植物園



モンゴル国立音楽舞踊学校内 庭園

